

平成29年度 第3回 静岡市総合教育会議

日時：平成29年12月14日（木）

午後3時30分～午後5時30分

場所：静岡市役所静岡庁舎

8階 市長公室

（午後3時30分 開会）

○司会（企画課 佐藤地方創生推進担当課長）

本日はご多忙な中をお集まりいただきありがとうございます。ただ今より、平成29年度第3回静岡市総合教育会議を開会いたします。開会に当たりまして田辺市長からご挨拶をいただきます。市長よろしくお祈いします。

○田辺市長

今年度、本当にお世話になりました。どうもありがとうございました。おかげさまで3つのテーマについて議論を深めることができました。また、委員の皆さまから様々なご発言をいただいて会議をやり、そして今日があるという、この会議と会議の間がすごく大事でありまして、委員の皆さま方からの問題提起をもとに議論が始まり、そして深め、そして市長部局と教育委員会が論点を整理してということで、皆さまのこの教育会議を一つのテコにして、教育行政に力を入れる起爆剤とさせていただいているというところがあります。本年度から松村委員が新しく入っていただいたことによって、議論はなお活性化をしたと。ここでちょっとウケるかな、というふうにも感じております。今日も、これだけ、傍聴の方々が沢山いらっしゃっている、その緊張した会場の雰囲気でありますけれども、しかしながら、委員の皆さまには、形式的なやり取りにならずに率直にご自由に、また、事務局が今までの皆さまのご発言をもとに作り上げた議題の資料についてご発言をいただいて、実のある時間になることを期待をして。おそらく手元の原稿も、今、私が言ったと同じようなことが書いてあるというふうに思いますが、本日の会議では、来年度の取り組みに繋がる新しい事業の提案が数多くあると、今日の教育行政のコントロールタワーである総合教育会議が責任を持って取りまとめを行い、児童生徒の目線に立った施策を実施できるよう、また、現場を担う教員の皆さんをしっかりと応援できるようにしていきたいと存じます。どうぞよろしくお祈いいたします。以上です。

○司会（企画課 佐藤地方創生推進担当課長）

ありがとうございました。続きまして池谷教育長からもご挨拶いただきます。よろしくお祈いします。

○池谷教育長

こんにちは。第3回静岡市総合教育会議の開催にあたりまして、教育委員会を代表してご

挨拶させていただきます。

今年度は、「グローバル人材育成のための魅力ある教育施策」、「日本一おいしい学校給食の提供」、「子どもの貧困対策」の3つのテーマについて話し合ってきました。

特に7月の第1回会議では、「グローバル人材育成のための魅力ある教育施策」、「日本一おいしい学校給食の提供」の現状と課題について、教育委員会内のプロジェクトチームから発表させていただきました。

10月の第2回会議では、子ども未来局、保健福祉長寿局と教育委員会の3局が連携し実施した子どもの生活実態調査の結果をもとに、議論を進めました。

子ども未来局におきましては、厳しいスケジュールの中で、調査結果のとりまとめを何とか第2回会議に間に合わせていただいたこと、本当にありがとうございました。

さて、私は教育長就任以来、学校を訪問し、現場の声を聞きながら、その現場の声に沿った施策を展開することを目的に、今年度の総合教育会議に臨んできました。

そうした中、本日の今年度最後の総合教育会議では、前回までの議論を踏まえて、市長と教育委員会との間の共通認識を図り、課題の解決に当たっていくことを確認できたと思っています。

そして、市長のおっしゃる、「子育てしやすいまち」に加えて、「子どもたちがよく育つまち」に向かって、全力で取り組んでいきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

○司会（企画課 佐藤地方創生推進担当課長）

ありがとうございました。それではこれより議題に移ってまいります。ここからの進行は、当会議の座長であります田辺市長をお願いいたします。では、よろしく願いします。

○田辺市長

はい、わかりました。それでは次第に従いまして議事を進めたいと思っております。議事の(1)番、協議事項について、3つありますけれど、まず「グローバル人材育成のための魅力ある教育施策について」、事務局から説明をお願いします。

○望月教育局長

はい、よろしく願いします。それではA3判の検討資料1をご覧ください。

一つ目のテーマは、「グローバル人材育成のための魅力ある教育施策」です。

左側「1」に第2回会議における皆さんの意見を集約しております。

英語を活用したコミュニケーション向上プロジェクトにつきましては、1つ目に楽しく英語が学べることを大切にしてほしいといったご意見、それから2つ目に子どもたちの英語力をどのように計るかということにつきまして、英検3級を活用して自分の力を客観的に計ったり意欲向上につなげることが期待できるのではないかと、その受検に対して市が助成制度を設けてはどうか、そういったご意見がありました。

それから3つ目は地域人材の活用で、地域に住む、海外生活経験のある方をGET、グローバル・イングリッシュ・ティーチャーの略ですけれども、そういうかたちで招聘すべきではないかといったご意見をいただきました。

4つ目は、教員の指導力向上という観点で、小学校への英語専科教諭の配置を進めるべきといったご意見がありました。

5つ目は、英語を使う機会を設けることが必要ではないかということで、英語を日常的に使う場や、それを発表するような場を作ってみてはどうかというご意見をいただきました。

それから「しずおか学」につきましては、子どもたちも静岡のことを語れるように「しずおか学」を学んでほしい、学んだことを発表する場も必要である、市内の企業や職人の方と関わる機会を作ってほしいといったご意見をいただきました。

これら第2回会議までの議論を踏まえまして、右の「2」に事務局で今後取り組むべき方向性を取りまとめて示しております。

『英語を活用したコミュニケーション向上プロジェクト』につきましては方向性を3つ掲げました。

1つ目の方向性は授業の充実です。取組内容としましては、静岡ならではの楽しく学べる独自教材の開発に新たに取り組んでいくこと、英検の受検者に対する補助制度の新設を掲げました。

2つ目の方向性は指導者の英語力・授業力の向上です。取組は3つありまして、まず、英語が堪能な地域人材の活用としてGETを各学校に配置していくという取り組みを新たに進めたいと思います。次に、教員の研修をさらに拡充してまいります。最後に、先ほど申し上げた小学校への英語専科教諭の配置を拡充していくということです。

方向性の3つ目は、英語に接する機会の拡充です。取組1つ目はイングリッシュキャンプ、それからイングリッシュカフェの拡充です。取組の二つ目は新たな取り組みとして英語の授業以外でも英語を使うイングリッシュデイを各学校に設定していくことを考えております。取組の3つ目はプレゼン大会、それから4つ目としてスポーツ国際交流員SEAを招聘していこうという、これも新たな取り組みとなります。

『しずおか学』につきましては、方向性の1つ目として総合的な学習の時間を使った地域ならではの特色ある教育活動の展開ということで、副読本の作成、これは広く一般市民の方も手にすることができるようにすることを検討してまいります。

方向性の2つ目としては、地域の企業の特色やノウハウを生かした取り組みとして、地域の企業と連携してプログラミング教育とキャリア教育を新たに進めてまいります。

方向性の3つ目の、『しずおか学』で学んだことを発信するという機会につきましては、静岡市子どもPR隊とかインターネットの活用、それから、静岡学検定といったことを進めていくことを検討しております。

以上が事務局で考えている今後の方向性となります。説明は以上でございます。

○田辺市長

はい、教育局長ありがとうございました。協議事項も1の『グローバル人材の育成』と、こういうテーマでありますけれども、局長が詳しく説明をしていただきましたけれども、グローバルな方向とローカルな方向、これを併せ持った子どもを育成しようという強化プロ

ジェクトなんですね。それで委員の皆さま方の、今までのご発言をいただいたうえで、それぞれの方向性についてのキーワードはGETと副教材であります。グローバルな方向ではGETと、静岡グローバルな方向では副教材作ろうじゃないかというところでまとめ上げて、これが目玉になっていくのかなと、いろいろメニューは沢山ありますけれども、ここが目玉ではないかというふうに思っております。

それでご記憶のとおり、最初にこのグローバル人材を育てたいということに意欲がある教員、また『しずおか学』を普及したいということに意欲がある教員に、それぞれプロジェクトチームを編成してもらって、この総合教育会議が彼らにお墨付きを与えると、彼らやっていいんだよと、どんどん自分たちが思っていることをここで研究をしてほしいということで、最初にそういう場所を設けて皆さんにご披露をしていただき少し感動的だったと思います。それが半年後どうなったんだということも気になるというところがございますので、この二つのプロジェクトチームからその後の進捗状況も踏まえて少し、今、局長の、どちらかと言うと客観的な報告にちょっと色を付けていただきたいなと、味をつけていただきたいなというふうに思うんですけれども、その後のプロジェクトチームの進捗状況を報告かたがた、ひとつ見ながら、それぞれご発言をお願いしたいと思いますけれどもよろしいでしょうか。

○学校教育課 黒瀬指導主事

はい、ありがとうございます。学校教育課の黒瀬です。

○田辺市長

マイクを持って待ち構えておりました。

○学校教育課 黒瀬指導主事

本日は日本語で失礼します。

「英語を活用したコミュニケーション向上プロジェクト」では、異なる文化の人々と自信を持ってコミュニケーションをとることができ、さらに地元への愛情を持って国際的に活躍する子どもたちを育成していきたいという目標を掲げております。

その目標を達成するためには、市長にも言及していただいたGET、グローバル・イングリッシュ・ティーチャーが、今後の静岡市の英語教育においても、鍵、生命線になるものと、私たちは考えております。

GETについて、少し説明させていただきますと、単に英語が堪能な方、あるいは通訳代わりに授業に出ていただくというようなことは全く考えておりません。

海外の文化と静岡の文化を繋ぐ、あるいは比較することができる、そんな方にGETになっていただきたい、子どもたちがグローバルな視点を持てるよう、授業を一緒に進めていただける存在となつていただくことを期待しているところです。

そして、GETにつきましても、海外の文化に精通しているとともに、地域に根ざした人材であるということが、必要になってくるかと思っております。

子どもたちが地域の様々な事柄について、英語で発信できるようになるために、力を貸し

たい、そんな方が適任ではないかと考えています。

子どもたちが静岡の歴史や文化について、英語で表現するという活動を今後実施してく予定です。まずは子どもたちが担任とGETと一緒にプレゼン内容を作り、英語を使い、海外代表であるALTに伝えることができるようになれば、子どもたちは自信を持って英語を使うようになるでしょうし、もっとワクワクして英語の活動に取り組みたいとの思いを膨らめてくれるのではないかと信じております。

一方、英語が苦手な教員が、少なからず、特に小学校にいます。

そのような教員が、安心して授業の目標や狙い、内容について相談できる相手としてGETは非常に心強いと考えます。また、この単語の発音がこれでいいのかな、ALTにこれで通じるのかなという不安についても、GETに相談できる環境が整ってくることで、かなり解消されるのではないかなと期待しております。

将来的には、GETが、地域と学校とを繋ぐパイプ役を果たしていただけると大変素晴らしいなと考えていますので、ぜひよろしく願いいたします。以上です。

○田辺市長

はい、黒瀬プロジェクトリーダー、ありがとうございました。もう一つの方向性の『しずおか学』の方向ですね。いかがでしょうか。

○学校教育課 石井指導主事

よろしく申し上げます。『しずおか学』担当の石井です。

小中一貫教育によって、静岡を愛する、誇りに思う子どもたちを育てていくためには、やはり『しずおか学』が欠かせない、『しずおか学』の副読本というものがカギになってくると思います。

さらに、『しずおか学』では、座学だけではなく、体験的な活動というものも重視してまいります。

例えば、小中一貫教育の実践研究校である中島小中学校では、文部科学省の委託を受けまして、東日本大震災の被災地への訪問や、12月3日の地域防災訓練では自治会の方々と協力した訓練を実施しております。当日には、自分たちが防災について学んだことについて、地域の方や保護者の方に発信する機会を設けておりました。

そういった具体的な事例や体験を『しずおか学』の副読本に含めていきたいと考えております。

今後は、例えば、港町清水の活性化を目指している海洋文化拠点づくりというところでは、海沿いに位置する小・中学校で、JAMS TECや東海大学、国土交通省、日本海上広報協会等と連携しながら、海運教育を進めていきたいなと思っていますところでは。

また、『しずおか学』副読本については、来年度は、とにかく内容を充実させるために、研究を進めて、最終的には、市から子どもたちにその冊子を配付したい。さらには、市の魅力を一般の方々でも手にできるようにしていきたいと考えております。以上です。

○田辺市長

はい、石井プロジェクトリーダーありがとうございます。頑張りすぎて声が枯れてしまいました。そうしたら教育長、先ほどね、どちらかという総花的な方向性の中で少し補足をしてもらい、色を付けていただいたのではないかなというふうに思っておりますが、ここまでの報告を踏まえて、協議事項の1番について、さらなるご意見を委員の皆さまにいただきたいと存じます。だいたい概ね15分から20分ぐらい使いたいなと、いかがでしょうか。

○佐野委員

それでは。

○田辺市長

はい、佐野委員。

○佐野委員

よろしくお願いします。

事務局が、これまでの2回の会議をうまくまとめていただいているので、重点的に大事だと思ふことを述べたいと思いますが、それでよろしいですか。

○田辺市長

はい。

○佐野委員

まず、GETにつきましては、地域の方に活躍いただくためには、やはり学校とのすり合わせが大事で、それにかかる労力もかかるわけですが、ALTとともに、子どもたちの学習の質的な向上に対して、非常に大きな効果が期待されると感じております。

ただ、その一方で、これも予算が掛かることですが、小学校の先生方にとっては、英語の専科教員に入っていただいて、助けていただくということが、非常に大切なことで、かなり期待したいと考えております。

小中一貫教育の中で、小学校の先生と中学校の先生が、お互いに話し合うことが多くなると思ふので、小学校の先生の英語力をアップさせる仕組みづくりがあるといいなという期待もございします。

○田辺市長

その点で、教育長、コメントを頂けますか。プロジェクトリーダーでも結構ですから。

○池谷教育長

本市の小中一貫教育では、英語にも力を入れていきます。

例えば、美和中グループでは、小学校と中学校の先生が、共同で英語の授業を行うといった取り組みを重点的に進めております。

城内中学校グループでも、そういった取り組みが多く進められておりますが、平成34年の小中一貫教育スタート前でもできることから進めていきたいと考えているところです。

英語の専科教員の配置については、昨年の権限移譲を受けて、国に直接申請ができるようになりましたので、国に対して強く要望していきたいと考えております。

○田辺市長

ありがとうございます。ぜひ、よろしく願い致します。佐野委員続けて下さい。

○佐野委員

はい。『しずおか学』に関しては、『しずおか学検定』といったような形で、目標を設定しながらの学習にすることが重要で、特に市民の皆さんに広げていく段階では、特に大切ななと思います。以上でございます。

○田辺市長

はい、どうもありがとうございます。目標を掲げる検定という考え方、アイデアも含めまして、いかがでしょうか、教育委員会のほう、ちょっとコメントもらえますね。はい。

○学校教育課 石井指導主事

ありがとうございます。副読本についてですけれども、学校教育の中での活動となりますので、目標の設定という視点もしっかりと取り入れたいと考えています。

○田辺市長

はい、ありがとうございます。何か達成感みたいなものね、これを覚えて、何かこうやってやったとかね、検定で達成感を味わう。そのあたりの検討をまた、今の佐野委員の発言をもとに議論を深めていただければなというふうに思います。はい、どうもありがとうございました。じゃあ、橋本委員。

○橋本委員

はい。黒瀬プロジェクトリーダーの「GETは生命線である」という発言が非常に印象的でありました。

地域の方々の力を借りて英語を学ぶということは、グローバル人材の育成につながる非常に大きな取り組みで、地域人材の活用が可否を握ってくると思います。

いい人材を確保するために、ぜひ有効なPRを行っていただきたいと思います。

○田辺市長

はい、ありがとうございます。このところちょっといい人材を確保するためにどんな風に今、考えているか、少しプロジェクトリーダー。今、議論の途中だと思いますけれども、何かコメントあればお願いします。

○学校教育課 黒瀬指導主事

はい、ありがとうございます。現時点で、J-SHINEや市の国際交流協会に通訳ボランティアとして加盟されている方、あるいは海外で働いた経験のある市民の方など、GETになりうる方は、一定多数いらっしゃる程度見えてきております。

そういった方々へのアプローチをしっかりとしていきたいと考えております。

○田辺市長

はい、ありがとうございます。そうするとちょっと具体的になってきますよね。はい、続けて下さい。

○橋本委員

はい。PRといえば、本日の新聞に美和の子どもたちが、地域の住民の方々と英語活動を

行ったという記事が載っておりました。

これは、地域の方々とつながる良い取組であるとともに、静岡市は小中一貫教育の中で英語を楽しみながら学ぶ教育を進めていくんだよ、というPRにもなっているのかなと思い、非常に力強く感じたところです。

この取組では、英語を使って楽しくじゃんけんゲームやかるた取りを行ったようですが、授業以外で英語を使う一つの場面になっているのかなと思います。

方向性にもありましたけれども、イングリッシュデイのように英語を使う機会を、意図的・具体的に計画を進めていくことが大事であると考えております。以上でございます。

○田辺市長

ありがとうございます。勉強と実践ですね。もう一度教育統括官、ぜひ、教育会議で褒められたということを美和の担当者の方々によろしくお伝え下さい。

○望月教育統括監

ありがとうございました。大変喜ぶと思います。

○田辺市長

はい。どうもありがとうございます。それでは伊藤委員。

○伊藤委員

GETについては、私も大事なことだと思いますが、皆さんが多く発言されておりますので、あえてそれ以外のことについて発言させていただきたいと思います。

前回の総合教育会議の際に、松村委員もよくおっしゃっておられたと思いますが、子どもたちにとって、日常的に英語を使う場面が本当に大事だろうと考えております。

その意味では、検討資料1の方向性3の取り組み②に、あいさつなど授業以外で英語を使うイングリッシュデイを学校ごとに設定することが挙げられていますが、教育委員会として、一律にやって下さいと学校にお願いするものではなく、学校が、それぞれの事情やニーズに応じて、いろいろな形で実現できると、とても良い取組になるだろうと考えております。

あえてお願いするのであれば、勉強だけでなく、挨拶も含めて日常生活の中でいろいろと学校が工夫していただけたらいいなと思います。

例えば、次のテーマである食育に関連して、給食などをテーマに英語で勉強してみる、あるいは議論してみる。例えば、学校給食課が、給食のメニューを英語で作って下されば、それをテーマに何か議論できるかもしれない。

例えば、部活や体育も含めてスポーツは動作を伴うことなので、その動作を英語で表現してみたりすると、すごく身につくし、楽しいことだと思います。

ですから、取り組み④の「スポーツ国際交流員の招聘」も、そういったことに繋がる取組だと思うのですが、各学校が、日常の中でいろいろな行事や活動と英語を組み合わせながら創意工夫を凝らして、進めていただきたいなと考えました。以上です。

○田辺市長

はい、どうもありがとうございます。英語のほうの方向性の3。英語に接する機会の拡充

のところ、光を当ててやると発言をいただきましたが、私も同感なんですけども、これ、言うに易く、行うに難しと…それ、その通りなんだけど、小中学校で、月1回英語で話すというような機会を作ったのは、かなりヨッコラショという準備期間というか、意識啓発が必要だというふうに私は素朴に思うんですけども、その恩沢も含めて、今の伊藤委員の期待に対して、プロジェクトリーダーどう答えます。

○学校教育課 黒瀬指導主事

ありがとうございます。

教育委員会から、各学校の好事例を、報道等を通じて発信していくことによって、皆さんが「いい取組だな」と賛同してくれて、だんだんと広がっていくと、すごくいいなと思って聞かせていただきました。ありがとうございます。

○田辺市長

はい、どうもありがとうございます。意欲満々ですので伊藤委員。はい、ありがとうございます。お待たせいたしました。どちらからいきましょう。

○杉山委員

はい、私から。

○田辺市長

はい、杉山委員。

○杉山委員

はい。私も伊藤委員と同じような考えを持っております。ちょうど1カ月ほど前になりましたか、市長が風邪をひかれていた…。

○田辺市長

すみません。

○杉山委員

その頃ですが、海外からいろいろな方をお招きして、用務が終わった後に、バスでその方々を東京まで送っていったんです。

送っていったのは、私とあと2人、3人ともほとんど英語喋れないんですが、車中では、片言の英語でずっと会話をしながら、相手の方々もゆっくり話してくれたので、聞き取りやすかった。

ただ、聞く方はどうにか分かるのですが、喋る方では、単語が出てこない。

○田辺市長

どこの国の方でしたっけ？

○杉山委員

マレーシア。

○田辺市長

マレーシア？

○杉山委員

マレーシアの方々も、少し日本語も喋れたので良かったんです。

そのあとが一番大変だったのですが、東京へ着いてから、一緒に食事をする事になりました。頭をずっと回転させながら、もう食事どころじゃないんです。

○田辺市長

疲れ果てて。

○杉山委員

はい。でも、3人で帰りに、自分たちのかすかな英語力でも何とかあったなという話をしてきたんです。

子どもたちも、こういった経験をする事が一番大事だなと思っているんです。

ですから、最初は難しいかもしれないけれど、イングリッシュデイなどは、予算も少なく、学校がその気になればできる取り組みだと思うので、ぜひ、やってほしいなと思います。

○田辺市長

なるほど。いったんここで切りましょうか。

プロジェクトリーダーだったり自分の使う英語が外国人に伝わったという経験は、私もすごく覚えていまして嬉しかったんですけどもいかがでしょう。

○学校教育課 黒瀬指導主事

私も、初めてオーストラリアに行ったときに、「I'm looking for my camera.」と喋って通じたことを、とても嬉しく思い出しました。

○田辺市長

ああ、そういうことですね。

○学校教育課 黒瀬指導主事

はい、本当に誰にとっても第一歩というのはあるもので、早いうちにそういう経験ができることが、とても大事な事だなと思っています。ありがとうございます。

○田辺市長

はい、続けて下さい。

○杉山委員

はい。もう一点は副読本の事です。

内容の検討を何度も重ねていただき、良いものを作っていただきたいと思いますけれども、IT化が進んでいるとはいえ、学校では、まだiPadのようなものを全員が持っているわけではないので、データ化してもなかなか授業に使うことができません。ですから、やはり冊子を作って子どもたちに配ってほしいなと思っています。

先般、松村委員と賤機中小の5年生の授業を視察させていただいたのですが、そこでは、大阪のしらす漁と用宗のしらす漁を比べる授業をやっていました。そこで、私が驚いたことは、先生の指導かどうかは分かりませんが、机の上に辞書を置いて、分からない言葉があると、それで調べながら授業を行っているんです。これ、すごいなと思ったんですよ。

これから郷土に関する授業を行うにあたって、副読本を近くに置き、いつでも自分で調べ

で学べるということが、すごく大事なことだと思っているんですよね。

そういう面で、やはり副読本は非常に大事だと思うし、ふるさと観光大使の皆さんなどの一つの参考書にさせていただければと思います。

それから、駿府ウェブでは、浅間神社について自分たちでまとめたものを英字にして、それを一般の方々に配っています。このような取組もやはり大事なことだと思うので、この事業が完結するまで、見守っていただきたいなと思っております。以上です。

○田辺市長

はい、どうもありがとうございました。副読本は子どもたちだけではなく大人も活用できるようなものにとったご提言でしたけれども、プロジェクトリーダーいかがでしょうか。私も声がかれてきちゃいましたけれども。

○学校教育課 石井指導主事

ありがとうございます。自分も小学校の教員ですけれども、子どもの探究心はものすごく、一回火がつくとどんどん調べてみたいとなります。

そのような時に、手元に調べられるものがあったら、子どもはパラパラとめくって答えを探したり、次の課題を見つけたりします。

そのためにも、副読本は本当に有効で、静岡のことをもっと知りたいというようになるのではないかと思います。

○田辺市長

大人への応用という点はどうですか。

○学校教育課 石井指導主事

はい。現在、幅広い内容を盛り込むことを考えていますので、大人の方の探究心に火をつける内容にもなるのではないかなと思います。

○田辺市長

なるほど、子どもっぽいものにはしないということですかね。

○杉山委員

子どもにも使えるものでしょうね。

○田辺市長

その辺のバランスがね。子どもにとって難しすぎてもいけないだろうし。

○杉山委員

はい、そうですね。

○田辺市長

次よろしく。よろしいでしょうか。これまたこれ…

○杉山委員

ぜひ頑張って下さい。

○田辺市長

はい、ありがとうございました。じゃあ松村委員。

○松村委員

市長にお願いしたいことが1点あります。

○田辺市長

はい、私に？

○松村委員

うん。これはもう市長でなければできない。予算をしっかりとつけていただきたい。

○田辺市長

あー。

○松村委員

教育にはやっぱりお金が必要。お金をかけないと向こう30年、50年、100年の教育は成り立たないのだけれども、日本ほど教育費が少ない国はない。

何にお金をかけるのかといえば、静岡市の「グローバル」と「しずおか学」は素晴らしい教育ですよ。

○田辺市長

そうですね。

○松村委員

プロジェクトリーダーをはじめとして、静岡市の教育委員会の皆さんは、本当に優秀だと思う。僕は、私学にいたものだから、あんな固いこと言ったら、人間は育たないよと思っていたけれども、初めて公務員の優秀さを認めました。教育委員として、ここに参加させていただいて、自分を反省するとともに、彼らの優秀さを本当に認めています。

今からやろうとしていることについて、学校現場がどこまで協力してくれるかということが、最後のネックになると思います。何でもそうですよ。

教育委員会のやることについて、何でも反対の教員はいくらでもいると思う。それを乗り越えるのは、まずは市長の率先垂範と経費が必要。

○田辺市長

はい。

○松村委員

素晴らしい取組なんだけれども、一般の方々に無料で協力してもらおうなんてことはとんでもないですよ。

私は、自分が校長を務めていた学校を、公立に負けない学校にしようと思ったものだから、公立の学校の教員に、これまで以上の給料を出すからと言って、自分の学校に来てもらった。

○田辺市長

私立に？

○松村委員

おかげさまで毎年100人以上の国公立進学者を輩出することができた。素晴らしい教育にお金がかかるのは当たり前のこと。それだけの人をお願いをするわけだから。

○田辺市長

なるほど。

○松村委員

このことは別に自慢することじゃないけれども、人を育てるためにお金をかけることはとても大切だということでお願いしたい。

○田辺市長

分かりました。

○松村委員

それからもう一つ、『しずおか学』に取り組む前に、人間学を先生方に勉強させて欲しい。

市長が、教師塾での講義の際に、森信三先生や東井先生、坂村真民を取り上げるということ聞いた。

○田辺市長

よく伝わりましたね。

○松村委員

昨日、若い教員にもしっかり勉強しろと伝えたけれども、森先生や東井先生、坂村先生なんて、今どきの教員は知らないですよ。

○田辺市長

ありがとうございます。

○松村委員

市長が、それだけのことをやってくれてたら、教員は真剣に協力するしかない。ありがたい。だから、まずは『しずおか学』以前に人間学が必要。

○田辺市長

はい。

○松村委員

子どもたちのための教育ということで、ぜひ、お願いします。

○田辺市長

はい、ありがとうございます。2点いただきましたけれども、まず1点目、本当に大きな文部科学省の今後の義務教育行政の方向性ということに沿ってこの議論もあるんでしょうけれども、このGETの話も副読本の話も、マストの施策ではなくてプラスαの、静岡市のオリジナルのことをこれからやろうとしているわけですね。その意気や熱意やプロジェクトチームの皆さんの頑張りに応じていかなければいけないという松村委員の応援のエールだというふうに承りましたので、ここのところは今30年度の予算がまさに編成過程になります。今日、今年度最後の総合教育会議だから、私もこれをまとめようという方向で、今、進行役をやらせてもらっておりますけれども、まとまったものをぜひこの教育会議の権威をもって予算に反映をさせていくということをしてかなければいけませんので、財政局担当の副市長が今日は同席しておりますので、どうぞ決意の一端を松村委員にお答えください。これ

はプロジェクトチームたちの頑張りに対する我々の恩返しにもなると思うんですけども。
小長井副市長、お願いします。

○小長谷副市長

今の各委員のお話も十分お気持ちは分かりましたので、なるべく市長のリーダーシップのもとに予算についても万全を期せるように努めていきたいと思っておりますので、またぜひ応援のほうよろしくお願ひいたします。

○松村委員

よろしくお願ひします。

○田辺市長

ありがとうございました。9月、11月の議会の本会議でも、今日、牧田副議長をはじめ沢山の議員の方々もこの総合教育会議に関心をもっていただいておりますけれども、松村委員と同じような発想で、とにかく予算に反映をして欲しいというようないくつかの問題提起が本会議でも常任委員会でもありましたので、それも私受けとっておきますので、何とかそれを力にしてプロジェクトリーダーの頑張りに応えていきたいなというふうに思っていますのでどうぞよろしくお願ひします。

○松村委員

ぜひ、お願ひします。

○田辺市長

もう1点の、これまったくその通りで、『しずおか学』の前に人間学でありますね。それは子どもたちと共に教師がそういうような心得と言いますか、古きを温めて新しきを知ると。人間なんて何百年前も今も変わらず、一つ怒ったり、笑ったり、喜んだり、悲しんだりしながら生きてくるなかで、いろいろな困難があったりするっていった時に、先人はどうそれに対して対処したかと、どう乗り越えていったかということを知るということは、すごく大事な、私たちが未来に一つ一つの判断や決断をしていく時に大事な要素なんだろうなと思えます。時代の荒波に乗り越えてきた古典というものは、そういったものをまず教える教師がきちっと覚えていないと自分に自信が持てないというふうに思えますね。

○松村委員

そうです。そうです。

○田辺市長

その前に、まず、そういう松村先生がおっしゃるようなことを私たちは教師塾の塾生に教えたいなという気持ちは持っていて、今、指導局からの下でやっております。また、それが教師塾の、教師塾たる所以で初任者研修とは違うことを教えていこうということでもありますので、またぜひ、その辺りはアドバイス指導をいただければなど。

○松村委員

どこで言っているのか分からないので、もう一つだけ、すみません。

○田辺市長

はい。

○松村委員

さきほど、杉山委員も触れた用宗と大阪のしらすの漁を比べるという小学校の授業のことです。

その授業で副読本を使っていたのですが、その内容にビックリした箇所がありました。

「大阪では『炎天下』にしらすを野ざらしで置いている」という文章があったのですが、生のしらすを『炎天下』に置くなんてありえないでしょう。『炎天下』という言葉の意味を考えてないから、使ってしまうんですね。真夏にしらす漁なんてないですよ、今は。

○田辺市長

なるほど。

○松村委員

『炎天下』って何、『野ざらし』って意味は何、というところが分かってないから、平気で使っているんですね。

それを読んで、子どもたちも「炎天下に置いとくと腐っちゃうよね」と言うんだよね。当たり前だよ。

○田辺市長

はい。

○松村委員

あの授業でそんなことを教えようとしたとは思えないだよ。

○田辺市長

なるほど。

○松村委員

だから、今、教師塾で先生方が勉強しなければいけないのはテクニックではなくて、その言葉から受ける五感をどう捉えるのか、自分で感性を磨くといったことを学ばせないと、いい授業ができないと思う。

○田辺市長

なるほど。

○松村委員

その授業では、静岡では三艘の船で漁に出て、二艘で捕って一艘が運んでくるから早く処理できることを教えてました。それはその通りで素晴らしい。

大阪との対比で、大阪があんまりにも酷いというような教え方をして、子どもがそれを信じてしまう。そんなことありえないんだから、教え方を考えなければならない。

それは感性の問題なんですよ。よろしくお願いします。

○田辺市長

分かりました。ありがとうございます。あの教育長。

○池谷教育長

はい。

○田辺市長

来年度の教師塾の人学び講座に教育員代表として松村委員の講義を取り入れていただきたいというふうに私からお願いをしておきますが。

○池谷教育長

分かりました。

○田辺市長

この協議事項についての総括的なコメントを教育長最後をお願いします。

○池谷教育長

はい。新学習指導要領の施行が直前に迫ってきています。

小学校では3年生から英語を学ぶようになる、道徳が教科というような流れの中で、今回の提案になっているのですが、一方で、国でも進めている働き方改革も重要になってきます。

市長部局でもプレミアムフライデーなどの働き方改革を進めていますが、教育委員会としても教員の働き方改革を進めて、新しい流れに対応できる勉強、授業づくりに向けた時間を確保することが大事になってきます。

教員も指導力を高めて、様々な課題に向き合っていきたいと思っており、そのためには市長部局にもご協力をいただきながら教員の働き方改革などを進めていかなければならないと考えておりますのでよろしくをお願いします。

○田辺市長

はい、どうもありがとうございます。概ねこの議論はこれでいったん終了させていただきます。二つ目の学校給食。日本一おいしい学校給食の提供についてのテーマでいきたいと思えます。最初に5分ぐらいですか、事務局のほうから先ほどと同じようにこの資料の説明をお願いいたします。

○望月教育局長

はい。それでは、検討資料2をご覧ください。二つ目のテーマは「日本一おいしい学校給食の提供」です。

第2回までの委員のご意見をまとめました。おいしい給食の定義としては、ここにありますように、心で味わう、郷土を味わうことのできる給食を目指していこうということでした。

○の二つ目にありますように、そんな中では生産者の思いや作業の様子を子どもたちにしっかり伝えることが効果的だということ、四つ目の○にありますように、家康公記念献立等を今後も続けてほしいということ、それから、中学を卒業後も静岡の食に関する意識が継続するよう取り組むことが必要だといったご意見がありました。さらに、調理施設の人員不足について改善していくべきだというご意見をいただきました。

次に、実生活に生きる食育という観点では、子どもが作る弁当の日の継続をしていくべき、○の三つ目の大学生も自分で料理ができるようにしていくべきだというご意見をいただきました。

最後に、給食費の公会計化についての検討を進めるべきだといったご意見がありました。これらのご意見を踏まえまして、今後取り組むべき方向性を取りまとめてございます。

まず、目標としては、心で味わう、郷土を味わうことのできるおいしい給食を目指すという目標を大きく掲げました。

その方向性の一つとして、郷土を味わうという観点で静岡ならではの献立の開発に取り組んでまいります。その取り組みの一つ目としては、平成30年度に全国学校給食甲子園に挑戦しまして、31年度以降、その献立を給食として提供していくということです。

取り組みの二つ目は、静岡の歴史やイベントと関連した献立を提供していくということで、今後開催されるラグビーワールドカップや東京オリンピック・パラリンピックにちなんだ料理の検討も継続して進めてまいります。

方向性の二つ目は、食育や地場産物を生かした心で味わう食育指導ということです。

取り組みの一つとして、大学生に向けた栄養バランスのとれた食育指導をしていこうということで、大学生と本市の栄養士によるワークショップを開催するとともに、大学生でも手軽に取り組める食育に関する情報をまとめたチラシを製作・配布していこうという新たな取り組みを進めてまいります。

取り組みの二つ目は、地場産物を活用した食育指導の拡充ということで、新たな食育教材を製作して、全児童・生徒に配布します。

方向性の三つ目は、安心・安全な給食提供体制の確保です。

取り組みの一つ目は、調理体制の確保ということで、東部学校給食センターの人員不足の解消に取り組むとともに、新たに建設した北部学校給食センターを安定的に稼働してまいります。最後に、給食費の会計制度の検討を、新たに始めてまいります。

説明は以上でございます。

○田辺市長

はい。局長、ありがとうございました。こちらも皆さま方のご発言を基にして、三つの方向性の下で、このような取り組みを整理をさせていただきましたが、多岐に渡っておりますので、多少総花的な印象で受けとめられたのではないかなというふうに思いますので、こちらのほうも、学校給食のプロジェクトで、これはもう年度を越えて継続的なテーマとして柴田係長が引っ張ってくれておりますので。現実の難しさもプロジェクトチームだからこそ見える部分も一つ披露していただきながら、若干補足をお願いしたいなというふうに思っています。

○学校給食課 柴田主幹

それではよろしく願いいたします。学校給食課柴田です。

本年度のここまでの実践等を踏まえて、今後目指したい方向をお話しさせていただきました。第1回目の会議の際には、委員の皆さんから、美味しい学校給食とはどういうものかということでご協議いただき、定義していただきました。

それが、「心で味わう」「郷土を味わう」ということで、この方向性は私どもが目指してい

る方向性と同じでしたので、非常に自信を持って、その後の実践をつむことができました。

まず、静岡ならではの献立をどれくらい提供できるかということ、集中して検討してまいりました。特に、特産食材をどう扱うか、そしてお茶をどう扱うか、この2点に関して検討を行ってまいりました。

特産食材では、今までなかなか使えなかった地元の野菜を使った給食を提供しております。また、お茶につきましては、これまでは茶葉を使ったメニューがなかったものですから、新たに茶葉を使ったメンチカツや茶葉で煮た白身魚というものを開発し提供したところ、子どもたちも意外だったような反応を見せてくれました。

実際には18,000食ぐらいの3種類のお茶を使った給食を提供しており、静岡ならではの献立が提供できています。

今後に向けては、そのような給食を食べた子どもたちにどうアプローチしていくか、重点的に行っていきたいと思っております。そして、子どもたちが食を通じて静岡市ってこういう所なんだな、すごいなというように愛着を持ってくれたら嬉しいなと思っております。

今年度は、現場が非常に頑張ってくれて、様々な新たな取り組みを進めてきたのですが、ぜひ、この場をお借りしてお願いしたいことがございます。

やはり、子どもたちに安心・安全な、美味しい給食を提供するためには、調理現場が安定しているということが、まずは第一に必要です。調理現場の安定の上に、安心・安全、そして美味しいというエッセンスを乗せていきたいなと思いますので、ぜひ、ご理解とご支援をいただければと思います。以上です。

○田辺市長

はい、どうもありがとうございます。最後に本音をおっしゃっていただいたなというふうに思いますが、委員の皆さんのご発言またはご意見を取りまとめてありますので、今の局長、係長の発言を踏まえて、ぜひ市長部局にいろいろぶつけていただきたいと存じております。いかがでしょう。また見合っています。

○松村委員

いいですか。ちょっと。

○田辺市長

ああ、どうぞ、どうぞ。

○松村委員

給食というテーマも『しずおか学』に絡めて、当然、動かすべきなんです。

だから、縦と横、ラインとスタッフの関係がうまく絡めていかなければならない。

○田辺市長

英語とも絡めてってさっきね、伊藤委員がね、おっしゃっていましたよね。

○松村委員

そうですね。だから、まずはラインとスタッフの役割の勉強から始めなければいけないのだけれど、これまで、行政も何でもラインばかりで、スタッフが動かないということが、結

構あると思うんです。

だから、一番大事な調理現場の安定というのも、『しずおか学』に絡めて、何とかしていただければありがたいなと思いますね。

○田辺市長

マンパワーですよ。

○松村委員

そうそう。

○田辺市長

本当に世の中が少し人手不足で、調理員の仕事、なかなか厳しいです。そのところをきちっと確保していくということが大事なのかなというふうに思っています。いかがでしょうか。はい、他に何でも。はい、佐野委員。

○佐野委員

ただいまの松村委員の意見ですが、民間会社を経営している中で、非常に人手不足感が強くて、給食を作る方、物を作る方が非常に減ってきているという実感があります。

いろいろな手立てで、学校給食の調理員を安定して確保することが非常に大事なことだおと思いますので、外部委託や派遣会社を使うといったことも含めて検討していく必要があると思います。

地場産物の利用に関しまして、私の子どもが通っていた小学校では、有度山の誰々さんのミカンというように、生産者の顔が見えるような取り組みをやられていて、非常に感動しました。

このように、例えば、駒越の枝豆など、少し高価なものであっても、その地域産の食材を子どもたちに提供できたらいいかなということを個人的には思います。

静岡市も広いので、駒越の枝豆や折戸ナスなど、いろいろな特産物があると思いますので、そういった特産物のある地域の学校だけでもよいので実現できたらなと思います。

○田辺市長

なるほど。ちょっとそこで切りましょうか。おっしゃる通りなんです。

ただし、1万食を提供しなければいけない、それも毎日。センターにおいて顔の見えるメニューというものの理想と現実のギャップというものがあろうかと思えますけれども、そのあたりのところを少し現状報告をしていただければなと思います。

○学校給食課 柴田主幹

はい、ありがとうございます。今年度は、学校給食センターで特産物を使ったメニューをどうしたら作ることができるのかということも検討してまいりました。

したがって、長田の唐芋、松野の牛蒡、水見色のこんにやくといった、ものをセンターで使うためにはどういうルートで入手できるのかということも検討の一つの視点でした。

このようなことも、少しずつ、何回ずつ実現しておりますので、今後も、ぜひ見守っていただきたいなと思っています。

○田辺市長

はい、どうもありがとうございます。続けて下さい。

○佐野委員

前回の総合会議でもお話しましたが、2年前の総合教育会議の結果、校務支援システムの導入が前進し、昨年の会議の結果、部活動ガイドラインの策定が進んでいます。

いずれも教職員の皆さんが子どもたちと向き合う時間をいかに確保していくかという、教員の多忙解消のテーマのもとで議論を進めてきましたが、学校給食費の徴収業務についても、非常に大きな役割を果たすと思います。

教員の皆さんが、学校が終わった後に、家庭を訪問して給食費の納入をお願いしていくというのは、非常に時間を費やしますし、精神的な労力もかなり大きいので、学校給食費の公会計化を強い希望として持っております。以上です。

○田辺市長

はい。学校の教員に、言うことを聞かない保護者になおも頭を下げて、そして給食費をもらうと、これはやはり教員の権威に関わるものなので、このところを何とかしなければいかんという、教育委員の皆さんの発言というものがものすごく力を発揮をしております。もとより、その前には、教員の多忙化解消というような大きなテーマのなかでのコンテンツは、この権威を持たなければいけないという、そこにもあるわけなんですけれども、これは本当に総合教育会議でのご発言というものを力を得て、学校給食費が、何とかこれを教員の手から離してあげたいということで、今、市長部局に対して戦いを挑んでおるところであります。その辺りのところの現状について森下理事、少しよろしく。

ただね、一方、市長部局のその担当は、公会計にも入れなければいけないんですよね。収納義務をね。いやいやいや、そこまでお金をかけてそれをやるべきか、学校の先生に今までやってもらったほうがいいんじゃないかと。そういう考え方も根強くあるわけでありましてけれども、どうでしょうか。

○森下教育局理事

はい、ありがとうございます。

ただ、決して戦いを挑んでいるというようなことはありませんので。

○田辺市長

そういう言い方をしたわけですよ。ケンカしているわけじゃないよね。

○森下教育局理事

そうです。学校給食費については、本市には本市なりの事情がございますので、メリット・デメリット、ハードルがあるのかないのか、その辺りをしっかりと調査研究させていただきたいということを、市長部局にお願いさせていただいているところです。

○田辺市長

はい、どうもありがとうございます。それに対してまた総務局担当の副市長、お願いします。

○小長谷副市長

今、理事から話がありましたように、皆さんのご意見は公会計化ということですが、運営コストやどれくらいのマンパワーが必要なのか、これまで先生方にご負担をかけていた部分を、行政が担うというようなこともあると思います。

すでに取り組んでいる他都市では、効率的に効果を上げている都市もあろうかと思えますので、そういった事例も十分に調査研究して、ベストな選択ができればよいと考えておりますので、少し研究させていただければと思っております。以上です。

○田辺市長

はい、どうもありがとうございます。総合教育会議の存在のおかげで、この議論が加速化しています。私は、市長として30年度中に結論を得ようというところまで締め切りを決めておりますので、そこまで少し研究をさせていただいて、何とか教員の多忙化解消に向けての施策にまとめ上げたいというふうに思っていますので、どうぞよろしく願いいたします。次は、じゃあ橋本委員かな。

○橋本委員

それこそ夜討ち朝駆けで、給食費の徴収に当たってきた経験者からすると、研究に取り掛かるというメッセージをいただくだけでも、苦労を分かっていたらいいんだなと、感じます。

○田辺市長

あとはスピード感ですよ。

○橋本委員

パワーをいただきましたので、ぜひ、よろしくお願ひしたいと思います。

先ほどの、地元産の給食について、新聞に載ってましたね。松野の牛蒡だったと思いますが、子どもたちと生産者が一緒に給食を食べている写真が載ってました。すごくいい写真だなと思ったんです。

日に焼けた顔つきやゴツゴツした手の生産者さんが、嬉しそうな笑顔で、子どもたちと一緒に給食を食べているのを見た時に、全ての学校でできるわけではないけれども、地産地消の食材の美味しさに、もうワンスライス、生産者の方の想いが降りかかって美味しくなっているのではないかなということが、読むほうにも伝わってきたんです。

そういう意味で、もちろん直接、生産者の方のお話を聴かせていただければ、一番よいのですが、先ほどお話しがあった教材の中に、生産者の方の想いを載せて、子どもたちに伝えられるということは、とても大きいなことではないかなと思います。

方向性の2ですね。ぜひ、具体的に心温まる教材集を作ることができると、とても嬉しく思います。以上です。

○田辺市長

はい、これは文科省の委託事業としてやってきたわけですので、高井次長いかがでしょうか。

○高井教育局次長

来年度、学校給食甲子園に挑戦していきます。その挑戦の中でも地場産物を使っていきながら、地元の生産者の顔が見える給食をどんどん提供していくことを目指していきます。

そういった内容を入れて、冊子をしっかり作っていきたいと思っております。

○田辺市長

その具体的な仕組みづくり。今までは実証実験的にやってきたんですけども、そこが難しいところなんですけども、何かそんな議論がプロジェクトチームの中でございましたか。

○学校給食課 柴田主幹

はい。先ほど、学校給食センターで地元産の食材を使った給食を可能とするためには、どうすればよいのか、検討を進めていると申し上げました。

まずは、前年度のうちに、どこのセンターで、どのような食材を、どのくらいの量が必要なのかを明らかにする必要があります。

ここについては、本当にありがたいのですが、経済局の方々にも協力をいただき、生産者の方やJAの皆さんにも入っていただいて、早いうちから計画的に把握できるようになると思います。

それから、その後の食材の調達についても、コーディネートを上手くやっていけば、なんとか可能ではないかということも見えてきました。

来年度は、このような取り組みが確定的になるように、進めていきたいと思っております。

○田辺市長

はい、ありがとうございます。よろしく願いをいたします。

他にお願いします。伊藤委員。

○伊藤委員

地場産物について、橋本委員の意見に追加なのですが、地場産物というと桜エビやシラス、お茶、ミカンなど、さっと挙げられるものはあるのですが、これ以外に何かと尋ねられると、ワサビはあるな、でも、だんだんと思いつかなくなってしまうですね。

そのような中で、今回、松野牛蒡を使ったメニューを作っていただきまして、ありがとうございました。申し訳ないのですが、私は松野牛蒡を存じませんでした。

このような、あまり有名でないかもしれないものでも、いろいろと地場産物はあると思います。量の確保は大変だとおっしゃいましたが、子どもたちも保護者も実は知らなかったものを給食に取り入れていただけるといいなと思います。

橋本委員がおっしゃられたように、リーフレットのようなものも作っていただければ、子どもが家に帰って、「給食で、今日こんなものを食べたよ。」ということになって、家族の会話が一つ増える、食育をテーマに話ができるんだろうと思います。

ですから、この地場産物をいろいろなものを使っていただくということで、本当に食育が家庭に広がっていくんじゃないか、とても良い試みをしてくださっているなと思いました。

○田辺市長

はい、どうもありがとうございます。すごく大事なポイントでね、子どもにとって美味しい給食とは何かという最初の議論で柴田係長が皆さんから背中を押してくれたと。子どもにとって美味しい食べ物といったらマクドナルドに決まっているんですよ。もうあのダブルチーズバーガーの禁断の味はやはり美味しいです。子どもにとってはね。

だけど、そうじゃないでしょということなんだな。学校給食の美味しいというのは、松野の物を食べる、折戸のなすを食べる、麻機のレンコンを食べる。そういうところの美味しさを味わうということなわけですよ。だから美味しさの次元が違うということです。そこに教育委員の皆さんが着目をしてくれて背中を押してくれて、そこから議論が自信を持ってスタートしたというのが最初の報告でしたので、どんなふうにそれを供給していくかということがこれからの仕組み作りの課題であろうということだと思います。続けて下さい。

○伊藤委員

それともう1点、学校給食費の公会計化についてです。

うまく進めていただきたいのですが、中央教育審議会でも議論が進んでいるように、教員本来の仕事とは何か、という原理原則のところからきちんと押さえていただいて、例えば、給食費を集めることが教員の仕事か、そういう切り口で考えていただきたい。

教員に集めてもらえば、お金が掛からないから、そのままやってもらえばいいなどと安易に考えないで、進めていただきたいと思います。

○田辺市長

はい、分かりました。これは私が受け止めておきます。ありがとうございます。

では杉山委員。

○杉山委員

はい。皆さんと同じで、私も、松野牛蒡を給食に使ったのは非常に良かったなというように思います。

私も、近くに住んでいたのですが、伊藤委員と同じで、松野牛蒡について知らなかった。

もう一つ、地元の牛蒡を使ったメニューができたことが良いのかというと、それだけではなくて、そこには味付けがあるんですよ。

ニンジンと牛蒡は、子どもが嫌いな食材の一つですよ。味付けを少し工夫することで、子どもが食べられるような状態になる、食材は幾つもあると思うんです。

そこで、栄養士さんの研修がすごく大事になると思うんです。そこにも、お金をかけていただきたい。

やはり学校生活の中で、給食は子どもにとって大事なもののひとつで、特に貧困家庭の子どもたちにとっては、給食が生命線と言われているようなこともあるので、ぜひ皆さんがおいしく食べられる味付けをお願いしたいなと思っております。

○田辺市長

はい、その辺りはどうでしょうか。本当に牛蒡という素材は子どもにとっては大変難しい食材ですけども、それを松野の牛蒡ということでどう感じてもらえるか。

○学校教育課 柴田主幹

松野の牛蒡は、通常の牛蒡より非常に太い牛蒡です。

給食提供の当日も、栄養教諭が、通常の牛蒡と松野の牛蒡を持って来て、比べて見せたと思います。

木の幹にしか見えないぐらいの太さなので、どう見ても固いだろうなと思って食べてみると実はすごく柔らかいんです。

子どもたちは「柔らかいだね。」と、まずはその食感を知ります。味付けは筑前煮というところでいろいろな食材と絡めて、食べやすいように少しお醤油をきかせました。

第1回目の会議の際に松村委員から、味付けは食材そのものを生かすことが大事とのお話をいただきましたので、牛蒡の風味を消さないけれど食べやすいということで、考えた味付けだと思っています。

これは補足なのですが、当日、関係者の大人も美味しい、美味しいと食べておりましたが、大人にとっても非常に美味しい味であるとともに、子どもたちも非常に喜んで食べておりました。

これまで取り扱ったことのない食材ということで、どういう味付けにするのか、どういうメニューなら生かせるのかという視点で研究してほしいとのご意見をいただいておりますので、お話しさせていただきます。以上です。

○田辺市長

杉山委員、大変いい論点をいただきましたのでね、研究を進めていただきたいなと思います。つまり、これは食育でね、いわゆる肥えた舌を作っていくということですよ。子どもの時代から。まあ打倒マックですから。牛蒡もそういうことでやれるんだよという力強い、今日お話をいただきました。例えば私の地元の麻機レンコン、召し上がったことあります。あれは、すごいんですよ。レンコンというと、どちらかというとシャキシャキじゃないですか。麻機レンコンってホクホクなんだよね。なので、どれだけの生産量があってどういうふうに供給するかということは課題があるんですけども、それによって「ああこんなに麻機レンコンってホクホクしていて美味しいんだ。」という肥えた舌を作っていくと、また全然マックのハンバーガーとは違う美味しいのレベルでね。そこをこれからどう研究していくかということは、プロジェクトチームの皆さんに期待をしたいなというふうに思いますので、よろしく。

○松村委員

麻機レンコンと松野の牛蒡は、天ぷらの高級食材になってしまっていて、食べるのが大変なんだよ。

○田辺市長

天ぷらを食べに静岡に来る時代になっていますからね。

○松村委員

そうそう。それともうひとつはね、最近、テレビが静岡を非常に取り上げてくれていて、

食や駿河湾について、全国放送されている。

○田辺市長

お金使ってます。

○松村委員

やはりね。

麻機レンコンは、まさにブランド化されている。松野の牛蒡も天ぷらにして、塩をふって食べたら抜群に美味しいわけですよ。

ただ、冷めてしまうと、子どもはどうかなと思うので、温かいうちに食べさせることが可能ならばきんぴらごぼうだけでなく、ぜひ食べてもらいたい。ものすごく美味しいですよ。

○田辺市長

おっしゃる通りですね。

○杉山委員

きんぴらごぼうもおいしいけどね。

○松村委員

もちろんそうですね。

それはそうだよ。まあエースだからね。

○田辺市長

話が脱線しそうなので。

○杉山委員

もう1件いいですか。

○田辺市長

短くお願いします。

○杉山委員

すいません。私も学校給食費の公会計化について、具体的に知らなかったもので、いろいろネットで調べてみました。

今年の4月の参議院の総務委員会でも議論されているんですね。答弁の中で、文科省の担当者から、システム化したいと答えていました。

さらに、9月6日の新聞には、全国で74%ぐらいが私会計で、文科省としても何とかしたいと考えているという記事がありました。

指定都市では、横浜、大阪、福岡が既に公会計化しているんですね。千葉もやろうとしているのかな。同じ指定都市がそういう動きをしている。

もう一つ、一番問題があるのは、ここじゃないかなと思うところは、教員が集めることによって不正も生じる可能性もあるということです。

それを教育委員会が未然に防ぐ体制にしていくということがそもそも論としてあると思うんです。

もちろん、先生の多忙感の解消という面もありますが、こういう視点からも、ぜひスピー

ド感を持って、公会計化の検討を進めてほしいなと思っております。

○田辺市長

分かりました。ありがとうございます。国会の議論があったという紹介もいただきまして、それを反映して文科省も方向性を出しております。今日現場からは、静教組の委員長が毎回傍聴して下さっています。竹内委員長が傍聴をして下さっておりますけれども、これ最後に文部科学省からも指針が出ているんですよ、実は。そこら辺の説明も少ししつつ、ちょっと議論をまとめていきたいなと思います。

○池谷教育長

中教審で、教員が担ってきた業務を仕分けて、その一部を外部委託するなどの対策を示した中間まとめが出されたことが、新聞にも載っていました。

教員の業務の範囲を明確にし、教員が子どもと接する時間を確保して、必要な指導ができる状況を作り出すことが強調されているというところです。

具体的には、登下校や放課後、夜間の見回り、給食費などの徴収といった業務を、自治体や地域の住民、保護者が担うべき業務として挙げられています。

このうち、特に給食費の徴収に関しては、教員の業務ではないとされていますので、市長の力をお借りすることをお願いしたいと思います。

○田辺市長

はい。

○池谷教育長

また、経済局との繋がりの中で地場産物を、給食センターで大量に納入できる道筋が示されたことは、本当にありがたい話です。

地場産物を給食に取り入れることで、生産者の方にとっても新聞に載ってPRにつながると考えられますので、Win-Winの形ができるよう、ぜひお願いしたいと思います。

ただ、納入ができて、栄養士さんも献立を作ったけれども、調理現場の人手が足りないから調理ができないといった問題が出ては困りますので、調理現場の人員確保をしていかなければいけないところについても、よろしく願いいたします。

○田辺市長

はい、分かりました。ありがとうございます。まだまだ、ご発言あろうかと思っておりますけれども、時間の都合上で次の議題に移りたいと思います。三つ目の協議事項は、子どもの貧困対策についてであります。これも、まず、最初に事務局からこれまでの議論の経過について資料の説明を約5分位、よろしく願いします。

○望月教育局長

はい、それでは検討資料3をご覧ください。三つ目は、子どもの貧困対策です。

第2回会議では、市民調査結果の概要を説明させていただきました。それを受けまして、委員の皆さんのご意見としては、まず、貧困関係を支援する取り組みとして、官民連携で進めるシステムを構築すべきだというご意見、中学生の学力の底上げも重要であるというご

意見、必要な家庭に支援策の情報を確実に届けることが大切であるといったご意見、駿河区へも適応指導教室の設置が必要ではないかといったご意見、最後に、スクールソーシャルワーカーの活動範囲の拡大を検討すべきであるというご意見をいただきました。

これらのご意見を踏まえまして、今後取り組むべき方向性を取りまとめてございます。目標としては、切れ目のない支援の実施ということを掲げさせていただきました。

方向性は三つありまして、一つ目は、相談窓口等の充実と関係機関の連携です。

1 という付番が振ってありますけれども、3局でそれぞれどのような取り組みをするかということに記載させていただきました。1-1にありますように、まずはスクールソーシャルワーカーの役割を、こども園から高校の橋渡しまでを担うような役割に拡充をしていこうということです。

それから、二つ目としては、1-②にありますように、教育委員会事務局の体制を強化するというので児童生徒支援課を創設してまいります。それと、こども未来局の所管として1-③の相談窓口の拡充ということで、各区の児童相談体制を拡充してまいります。

それから方向性の二つ目は、経済的な支援です。教育委員会では、2-①にありますように、今年度から就学援助費の入学前支給時期の前倒しを、今年度から実施しております。

それから、2-②の奨学金制度につきましては、入試前に採用予約を可能とする予約採用募集時期を今年度から採用しております。それから、利用者に対しては、地元企業の情報、就職情報等を提供してまいります。

方向性の三つ目は、学びの支援と居場所づくりです。3-①にありますように、学力アップサポート、放課後子ども対策として、放課後子ども教室や児童クラブを拡充していきます。それから、3-③にありますような適応指導教室の拡大の検討、子ども食堂等の官民連携のあり方や手法の研究、それから、3-⑤にありますような学習生活支援事業の拡充として、放課後の学習支援、生活支援を行う居場所の実施会場の増加や、支援対象を高校生まで広げるとともに、図書館司書や読み聞かせボランティア等を実施団体に派遣するような取り組みを教育委員会とこども未来局で連携していくことを考えてございます。

それから、最後、3-⑥にありますような学習意欲の向上ということで、家庭支援員の生活困窮者世帯への派遣について、対象世帯を高校3年生まで拡充していこうといった取り組みを進めております。

最後に、3局が連携して行うこれらの切れ目のない支援策をまとめたリーフレットを作成して、必要な方に情報提供をしていこうと、現在、考えております。以上です。

○田辺市長

はい、局長ありがとうございました。これも前回までずいぶん時間をかけて議論、発言をいただいたものが、このような総合的な政策として、教育委員会、市長部局、横断的に局間連携でまとまったチャート図であって、そのキーワードは切れ目のないことであります。ただし、これも様々なメニューがあって総花的なきらいがありますので、この中で敢えて重点的にこれからやっていくべきだよというふうに発言をいただいた部分、まず一つ目の1

－①の部分、これは高木前教育長が熱心に取り組んできたスクールソーシャルワーカーの活用・拡充ということであり、大変やってみたが、これは担任の先生では手が届かないところの子どもの目線に、子どもたちの暖かい目線になっているという面も効果があるというふうに踏んでいるわけですが、このことについて少し現場の学校教育課、ぜひ補足をお願いをいたします。

○学校教育課 山崎主幹

はい、学校教育課の山崎です。スクールソーシャルワーカーについてですが、こども未来局さんが実態調査を実施していただきました。

その調査では、子どもの支援においては、切れ目のない対応が必要だということが、課題や意見として、聴き取られていました。

就学前の児童については、要保護児童連絡協議会という組織があり、特に虐待対応という面では、こども未来局さんや保健福祉長寿局さんと、連携が図られております。

しかし、テーマとなっている貧困対策についての連携は、まだまだ不十分なところがあると思います。

小学校入学に当たって不安を抱えている保護者は非常に多く、逆に中学校を卒業後、希望した進路に進めなかったお子さんもいます。このような子どもたちが、引きこもりや不登校になってしまうことも考えられます。

そうなってしまった時に、その子どもたちの指導については、適応指導教室のような受け入れ先があるのですが、現在、その繋ぎ役がいません。

この繋ぎの部分の部分をどうにかしていかなければならないことから、教育委員会としては貧困家庭への切れ目のない支援にスポットを当てて、こども園との連携、中学校卒業後の支援にスクールソーシャルワーカーに関わってもらえるようにするためには活動時間の拡充をお願いしたいと思っております。よろしく願いいたします。

○田辺市長

はい、どうもありがとうございます。繋ぎですよ。連携ですよ。これが求められるよということが一つのポイントだろうと思いますけれども、今、係長の話の中にも出てきた、もう一つの目玉で要望が強いのが、こども未来局が所管をしている3-③の適応指導教室の充実検討ということですね。本当に手のかかる子どもも増えてきているという現実のなかで、ここをどう充実させていくかというのも喫緊の課題で、これはさらに現場で実態について詳しい子ども若者相談センターの豊田所長お願いいたします。

○青少年育成課 豊田子ども若者相談担当課長

はい、お願いいたします。子ども若者相談センターの豊田です。駿河区への適応指導教室設置については、前々から当課で長年検討してきた課題でしたので、今回皆さまに応援をいただけて本当に嬉しく思います。今回の生活実態調査の自由記述でもその要望がありまして、また校長側からも設置を希望する声を聞くとともに、以前、バス代がかかるために、現在、中央体育館に設置しているふれあい教室…適応指導教室ですが、そこに通うのを断念

したというケースがあったと聞いております。また本年度、このふれあい教室のほうに通っている子どもたちの家庭の状況について相談員が個々に面談をするなかで把握した数字なんですけれども、家庭的に困難があるという子どもたちが56%ほどありました。そういった家庭的に少し大変な子どもたちの受け皿ということで駿河区にぜひということをお願いしたいと思います。

また、市内全体としても不登校児童・生徒が残念ながら年々増加傾向にあり、その受け皿を早急に整備する必要があると思います。昨年度、中央体育館のふれあい教室に通う通級生は36人、本年度11月現在でも31人です。この市長公室の半分位のスペースの中にそのくらいの人数が入っております。普通学級でも静岡市型35人学級編成を行っておりますけれども、その普通学級で人間関係や学習、それから生活に不具合を起こして不登校になる子が適応指導教室に来ている現状、また、異なる学校、異なる学年が集まる適応指導教室には、この今のスペースに30人以上入っているということはかなり難しいなということを感じております。ですから、ぜひ駿河区への適応指導教室ができれば新たな子どもたちの受け入れ、当然、駿河区の子どもたちが通いやすくなるわけですから、そういった子どもたちの受け入れがスムーズになるということで、ぜひ実践していきたいなというふうに思っています。以上です。

○田辺市長

はい、どうもありがとうございます。三つの協議事項の中でも、この貧困対策は、より一層教育委員会と市長部局との連携が問われる、総合教育会議に議論するにふさわしいテーマだろうというふうに思っておりますので、ここからは、今日は子ども未来局長、保健福祉長寿局長も同席をしておりますので、後ほど必要に応じて発言をお願いしたいというふうに思います。そして、今日の予定された終了時刻は午後5時であります、あらかじめ会議時間を延長したいと思います。職員の中で局長以外でどうしても次の公務が入っている方、傍聴の方ももちろんでありますけれども、中座をして下さって結構でありますので、このまま会議を続けさせていただきます。

それでは、委員の皆さんのご発言をお願いいたします。杉山委員。

○杉山委員

はい。以前、ある施設の職員から、子どもたちは、施設から巣立った後の方が大変で、施設にいれば守られているけれども、例えば、就職先が嫌になって辞めてしまうというケースがあるので、施設を退所した後の支援の方が重要だという話を聞いたことがあるんです。

今回、教育委員会の1-①、スクールソーシャルワーカーが、中学校卒業後の子どもたちまでフォローする、これがすごく大事なことだと思うんですよ。

保健福祉長寿局でも、事業の対象を高校3年生まで拡大することを検討されている。ぜひ実現してもらいたいと思っております。

○田辺市長

ちょっとここで切りましょうか。

○杉山委員

はい。

○田辺市長

これ統括官か次長か、どちらか答えてほしいです。

○高井教育局次長

スクールソーシャルワーカーについては、我々としても高校や未就学児までフォローできるようにしたい。そのために、スクールソーシャルワーカーの活動時間の確保を進めていきたいと考えているところでございます。

○杉山委員

時間だけでなく、人数の拡大もお願いしたいなと思っております。

○田辺市長

これも人件費の問題になってきていますね。教育委員会、一生懸命財政協議をこれからしていく応援団に杉山委員もなっていたきたいなというふうに思っております。順調に今まで拡大しているんですよ、ギリギリのところまで。もっともっと、もっともっとになってくるんですよ、こういうものって。現場ではね。なので、そこら辺のところ、担当の副市長聞いておりますのでよろしくお願いをいたします。ありがとうございます。続けて下さい。

会議時間延長しました。そして今年度最後の総合教育会議ですので、短い時間でありませうけれどせつかく傍聴を下さっている皆さま、市議会議員の皆さんもいらっしゃるので、後ほど、これだけは教育委員の皆さんに言っておきたいということがありましたら少々発言の機会を作りたいと思いますのでよろしくお願いをいたします。はい、他にお願いします。

○佐野委員

はい、では。

○田辺市長

はい、じゃあ佐野委員。

○佐野委員

先ほど、リーフレットを作成しているということを知りましたが、マニュアル的な要素も含めて作っていただきたいと思います。

今回、総合教育会議で、こども未来局さんや保健福祉長寿局さんが、こんなことをしているんだという新たな発見をさせていただき、非常に勉強させていただきました。

これだけ手厚い、例えば、生活困窮世帯の子どもへの居場所の提供であるとか、家庭支援員の生活困窮世帯への派遣など、申し訳ないんですけども、存じ上げませんでした。

このような取組をマニュアル化して、利用者側にとって分かりやすい内容にさせていただく工夫がすごく必要なのかなということと、スクールソーシャルワーカーの活動の拡大については、ぜひ就学前と高校を対象を拡大していただきたいと思います。また、スクールソーシャルワーカーには、こども未来局や保健福祉長寿局の施策にも繋げていけるように、仕事に深みを持たせていただければありがたいなと思います。以上でございます。

○田辺市長

はい、どうもありがとうございます。褒めていただいたのと同時にこれからのPRということをどうしていくか、これは平松保健福祉長寿局長、応援メッセージだというふうに受け止めておりますけれどもいかがでしょうか。短くコメントお願いします。

○平松保健福祉長寿局長

はい、PRということで、やはり情報が、支援の必要な人に確実に届くということがとても大事ですので、今までもやってきてはおりますけれども、この総合教育会議でテーマになったということを追いつ風にして、今までやってきたこともまた一つ一つ見直しをして、どういうふうに連携をしたら効果的なのかということも含めて取り組んでいきたいと思います。

○田辺市長

はい、どうもありがとうございます。それでは続けて伊藤委員お願いします。

○伊藤委員

前回もお話をさせていただいたのですが、貧困の連鎖を防ぐためには、やはり子どもたちが高校、さらには大学へ進学できればもっと良いと思っておりますが、進学できる環境を作らなければいけないと思っております。

したがって、中学校の子どもたちへの学力支援が本当に大事だと思います。

それは、学力アップサポート事業すべきことなのか、あるいは3-⑤のこども食堂のような場所を作って、地域の方々や大学生にボランティアとして指導いただくという手法など、いろいろな手法があって、どれが正しくて、どれが間違いということでは決してないと思います。

しかし、単なる学習支援というよりも、ある程度高校受験を目指した支援をしていただきたいと思うことと、保護者の理解もないと子どもたちがなかなか高校に行くことができないと思います。

ですから子どもたちの学力向上だけでなく、保護者の方への働きかけも大事だろうと思います。そうすると、スクールソーシャルワーカーにも活躍していただかなければならないと思うものですから、学力支援という施策一つをとってもどこが担当というのではなく、本当に連携しながら進めていただけるといいと思います。

○田辺市長

はい、どうもありがとうございます。おっしゃるとおりです。学力だけでなく総合的な、親も含めた支援ということは、やはり市長部局としてはこども未来局が支えていかなければいけないというふうに思っておりますし、また3-⑤、いろいろなメニューがありますけれども、これは力点の置き方、連携とかその辺りを石野子ども未来局長、短くコメントお願いします。

○石野子ども未来局長

はい、ありがとうございます。先ほどの調査の中でも、やはり貧困の家庭については学力が低いとか進学率が低いみたいなものが出てきていまして、ここが手を入れる大切なとこ

ろだということも認識しております。そんな中で、今、計画の見直しをしているのですが、やはり学習支援でと言うのか、そういう部分に手を入れていく、厚くしていくことが重要と考えています。またそれから、保護者に対しての手当てということも大切で、本人に対してのそれと保護者に対しての意識づけ、これを二つの大きな視点として捉えて、両面から支援をしていくというようなことで今計画を練っているところであります。

○田辺市長

引き続きよろしく願いをいたします。次の発言をお願いします。では橋本委員。

○橋本委員

だいぶ前から3局連携という言葉をよく耳にしていましたけれども、このように具体的な施策が示されてくると、本当に連携が進んでいるんだなと感じます。一昔前からすると隔世の感があるほどです。

○田辺市長

総合教育会議のおかげですよ、これは。

○橋本委員

そう思います。本当にありがたい、ぜひ具体的に進めていただきたいと思います。

スクールソーシャルワーカーについては、学校への配置が始まった当初は、何をしてもらえばよいのかなと思っていました。

ところが、先ほどの市長のお話しではないけれども、スクールソーシャルワーカーの方々がよく動いていただいて、どんどん配置人数も拡充していただいたおかげで、スクールソーシャルワーカーがもっといてくれれば、というような成果が出てきていることを感じております。

その反面、スクールソーシャルワーカーの質の確保という問題も出てきています。

○田辺市長

そこですね。質と量の両立が必要ですね。

○橋本委員

はい。質も量も若干不足しているのではないかと考えますと、大学等と連携しながら、スクールソーシャルワーカーを育成・養成していくことに踏み込んでいかないと、そのうちに立ち行かなくなっていくのかなと思います。

先ほど杉山委員は、中学校卒業後が大事だとおっしゃいましたが、就学前の早期発見、早期対応も重要とっております。ぜひ切れ目のない支援が行えるようスクールソーシャルワーカーの拡充をしていただけるとありがたいとっております。よろしく申し上げます。

○田辺市長

ありがとうございます。この発言は私が受けとめさせていただきます。では松村委員。

○松村委員

はい。この問題が一番難しい。以前、自分も意見を述べたように、いかにして、いろいろな支援制度を知らしめることができるかがポイントになると思うんですよ。

行政としては、いろいろなメニューを用意しているんだけど、本当に必要な人たちに伝わっているのか、あるいは、その人たちは知ろうとしているのか。

今ふと思ったんだけど、ある程度の年齢の人が町内会にいますので、特に私の住んでいる地区なんて本当に多い。こういった人たちに活躍してもらえないか、社会の役に立ちたいという思いが、歳をとってくると、出てくるんですよね。

だから、そういう人たちと、いろいろな病気の人とか、1人世帯をチェックしている民生委員さんが連携して、本当の困窮課程を把握する。

でも、そうすると個人情報保護がネックになってくるんだけど、そんなことは言っていられないので、町内会長さんなんかは町内のことを一生懸命やりたい人が多いので、協力していただいて、必要な人に知らしめるような取り組みができないか。

知らしめるという意味でね。ただ単純にパンフレットを作った、広報紙に掲載したといっても、見ないんだよね。具体的に動く必要があるんだよね。

○田辺市長

はい、ありがとうございます。これ本当に大きな課題で、これ日本全体の課題だと思います。人生百年時代ということが、この頃政府の中の審議会でも出てきましたし、我々も行革審で今諮問をかけています。市長からの諮問で、まだまだ社会的貢献に意欲のある高齢者人材、それをどう活用していくかということ、これから行財政改革審議会の委員の皆さんにも専門的に集中的に議論をしてもらおうということを始めしておりますので、今日、総合教育会議でもこういう指摘があったということをお私、伝えてきたいというふうに思っております。

○松村委員

ぜひお願いしたいですよ。

それが、町おこしに繋がるってということと市外県外から人を呼び込む、良い教育をしているということになると、教育に熱心な若い親、つまりある程度経済力のある人たちが来るんだよね。

だから教育と貧困を全部ひっくるめて、静岡型が本当に確立できて、テレビ等を利用してガンガン周知できたら、必ず人は来るんだよね。どうですかね。

○田辺市長

なるほどね。いや全くそのとおりで、私、認識も同じでありますので、そこのところを踏まえて少し制度を構築をする検討に入っていきたいと思っております。また、総合教育会議と行革審の委員の合同の議論の場、この高齢者の活用、教育への活用、ということも私、来年度設けてもいいですよ。皆さんお忙しい時期両立するのは難しいですけども、私がよければいらっしゃってくれるでしょうか。ちょっと私が、この松村委員の今日のご発言、背負わせて下さい。

○松村委員

ありがとうございます。

○田辺市長

さて、時間も迫ってまいりましたので、ここで傍聴の皆さまに、池谷教育長に発言していただく前に、これだけは教育委員の皆さんに言うておきたいということがありましたらぜひ挙手の上、ご発言をお願いいたします。いかがでしょうか。

はい、ではお願いします、鈴木節子議員ですね。

○傍聴者（静岡市議会 鈴木節子議員）

すみません、ありがとうございます。貴重なお時間いただきます。私は議会の立場で今日は傍聴という立場でございましたけれど、議会としては、私は、市民環境教育委員会の委員長を仰せつかっておりますので、今回できる限り傍聴もさせていただきましたが、教育委員の皆さんが大変熱心な議論をしていただいて、組織をあげて、市長部局と教育局をあげて、これだけ熱心な、濃密な中身の濃い議論をしていただけるということにまず感謝を申し上げます。

○田辺市長

どうもありがとうございます。市のPTA連絡協議会の会長もご歴任をされた経験も踏まえまして今後ともどうぞよろしくお願いをします。受け止めさせていただきます。ありがとうございます。もう一人、今日、昼間予算要望をしていただきましたけれども、先ほど私が申しあげました、静教組の竹内執行委員長もいらっしゃっておりますので一言。せっかく、もう長くなっちゃったついででございます。

○傍聴者（静岡教職員組合 竹内氏）

静教組の執行委員長を務めております竹内です。普段は一般の教員です。一人の教員としてぜひ皆さんにもお願いしていただきたいのは、本当に教員は日頃から頑張っております。長い歴史を言えば、総合的学習をやりなさいと言われれば教科書がなくてもやってきました。道徳が入りましたと言われれば、どこに何を教えればいいのか分からず、でもやってきました。今度は英語教育が入ってきます。その英語教育が入ってきた時、外国語教育が入ってきた時も頑張っている。どのような場所にあっても教員が頑張ろうと思うのは子どもたちのためですので、ぜひ毎日日頃から頑張っている教員を支えていただけるのがこの会議だと信じて毎度毎度聴かせていただいておりますので、給食の話もそうです。特別な給食も大事ですが、日々毎日毎日頑張っている普通の給食を作っている方をぜひ支えていただければと私は思っています。よろしくをお願いします。

○田辺市長

はい、竹内委員長、ありがとうございます。私、受けとめさせていただきましたし、また総合教育会議でこのような、こういう議論が交わされているということを組合員の皆様にくれぐれもお伝えいただければありがたいなというふうに思います。それでは3番目のこの貧困対策について池谷教育長、最後に総括的なコメントをお願いします。

○池谷教育長

はい、ありがとうございます。今日の皆さんの意見や、これまでの川口氏から聞いてきた話、現場で起きている話から、貧困対策については、これからも総合教育会議で継続的に議

論していかなければいけない、一般の方々にも、ぜひ知っていただかなければいけないと思います。

貧困対策に力を注いでいきたいと思っておりますが、特によくいわれているのが、これまでの議論にもありましたが、市のいろいろな支援サービスがなかなか伝わっていかないということです。

困った環境にある人たちに、支援サービスの情報が届いていないということをよく聞きますので、今後、保健福祉長寿局さんとこども未来局と連携して、しっかり取り組んでいきたいと思えます。

そして、こども未来局の幼児教育の段階で把握している情報を、小・中学校へさらには、高校へ繋いでいく。そういった役割を担うのが、スクールソーシャルワーカーだとは思いますが、個人情報の問題も含めて、いろいろと検討していかなければならないと思っておりますので、ぜひよろしくお願ひしたいと思えます。

これからもこの分野に関しては、継続的に力を入れてお願ひしたいと思えます。

○田辺市長

はい、池谷教育長、どうもありがとうございました。そして委員の皆さん、傍聴者の皆さん、大変熱心な、そして活発なご発言をいただきましてどうもありがとうございました。予定の時間を30分以上ずっと押してしまってお詫びを申し上げますが、本日予定していた議事は以上のとおりになります。また、本日もちまして今年度の総合教育会議は終了となります。今、池谷教育長がおっしゃって下さった通りの方向性で、この総合教育会議という、国の法改正という、すごく労力をかけてくれて作った制度を最大限に生かしていくため、市長として市長部局のほうもこれからは教育委員会の下支えをするべく必死に取り組んでいきたいと思えますし、今日いただいた予算のことが多かったような気もいたしますが、制度設計から何から何まで、一つひとつ、これからの予算審議の議論に繁栄をさせていきたいというふうに思っております。この議論の結果を平成30年以降の予算にしっかり反映することが私の役割だと思っております。また、来年度の予算につきましては、随時論点が明確になってきますので、その都度教育委員会から教育委員の皆様にご報告する機会があるかと思えますけれども、引き続きどうぞウォッチングをよろしくお願ひいたします。それでは、これで本日の会議を閉じ、進行を司会にお返しいたします。

○司会（企画課 佐藤地方創生推進担当課長）

皆さま、どうもありがとうございました。以上をもちまして、平成29年度第3回静岡市総合教育会議を閉会いたします。1年間どうもありがとうございました。

（午後5時30分 閉会）